

ヒグマ活動期の運用方法の見直しについて

■ 小ループツアー増枠の検討

ヒグマ活動期の小ループツアーについて、現行の利用適正化計画では「大ループの運用上の支障がない範囲で」運用する捕捉的な位置づけとされており、1日4枠に限定して運用されてきた。令和4年度より、高齢者や子ども、団体利用といったニーズを踏まえ、4枠とは別に試行的に夕方の時間帯に小ループツアー枠を設定している

(以下、「試行事業」という)。令和6年度は利用枠の追加を検討するにあたり、生じる課題を洗い出すため、引き続き試行事業を実施する。

※試行枠以上の増枠には利用適正化計画の改定が必要である

■ 小ループツアー増枠における課題と検証の観点

➤ 安全管理上の観点

- ・ ヒグマ遭遇時の応対や避難誘導、中止後の再開などが円滑に可能か
- ・ 合流地点以降の混雑は避けられるか
(令和5年度までの試行事業により、登録引率者の技術によりある程度回避可能であることが実証されている)
- ・ 合流地点以降のツアー順を本部で把握可能か
- ・ 無線交信量・交信時間はどの程度増大するか

➤ 五湖フィールドハウスでの手続き等の観点

- ・ 認定事務等の受付手続きがどの程度増加するか
- ・ レクチャー、ブリーフィング等は円滑に実施可能か

➤ 小ループコースの活用方法、利用方法の観点

- ・ どのようなニーズがあり、マッチングをさせることができるか
- ・ 予約取得のルールや価格、時間設定などをどうするか
- ・ 既存の小ループツアー（既設4枠）との兼ね合いをどうするか

➤ 利用者への案内やサービス提供の観点

- ・ 利用者への案内や説明が複雑にならず、わかりやすいか
- ・ 当日受付事業との両立は可能か
- ・ 案内窓口や問い合わせ対応は円滑に可能か
- ・ Web サイトや広報媒体などはどの程度変更が必要か

円滑かつ安全な制度運営が可能か上記の観点から検証を行い、上限人数や増枠の配分を決定し、次期利用適正化計画に反映

■ 令和6年度の試行事業による検証方法

➤ 安全管理上の観点

- ・ 登録引率者への聞き取り調査

- ・ ヒグマ対策スタッフへの聞き取り調査
- ・ ヒグマ遭遇事例の収集（植生保護期も含む）
⇒増枠時に課題となる事例を研修で取り上げ、原因分析及び対策等について登録引率者から広くアイデアを募る
- 五湖フィールドハウスでの手続き等の観点
 - ・ フィールドハウススタッフへの聞き取り、運営状況調査

■ 試行事業実施方法（令和 4 ～ 5 年度と同様）

- ・ 該当枠 ：小ループ試行枠（15：40～16：30 間、10 分間隔発の 6 枠）
- ・ 利用対象：団体利用、自身で集客した個人客の利用
- 試行枠への入力方法
 - ・ 登録引率者自身により利用者情報を入力する。※大ループの方法と同様。
 - ・ 仮予約を認め、予約確定まで参加者情報は簡易なものでも可。※大ループの方法と異なる。
- 試行枠の運用方法
 - ・ 当日受付の紹介はなし。
 - ・ 既存の小ループツアー枠（4 枠）とは運用ルールが異なることから、知床五湖 Web サイトでの広報・公募は行わない。
※一般向けの予約サイト（<https://www.goko.go.jp/fivelakes/>）からは閲覧不可。
 - ・ ヒグマによるツアー中止となった場合等に、この小ループ試行枠（6 枠）のなかであれば、枠を振り替える（枠を移動する）ことを可とする。